
第6回 富山駅周辺整備事業推進協議会

富山駅高架下空間の利活用に関する検討

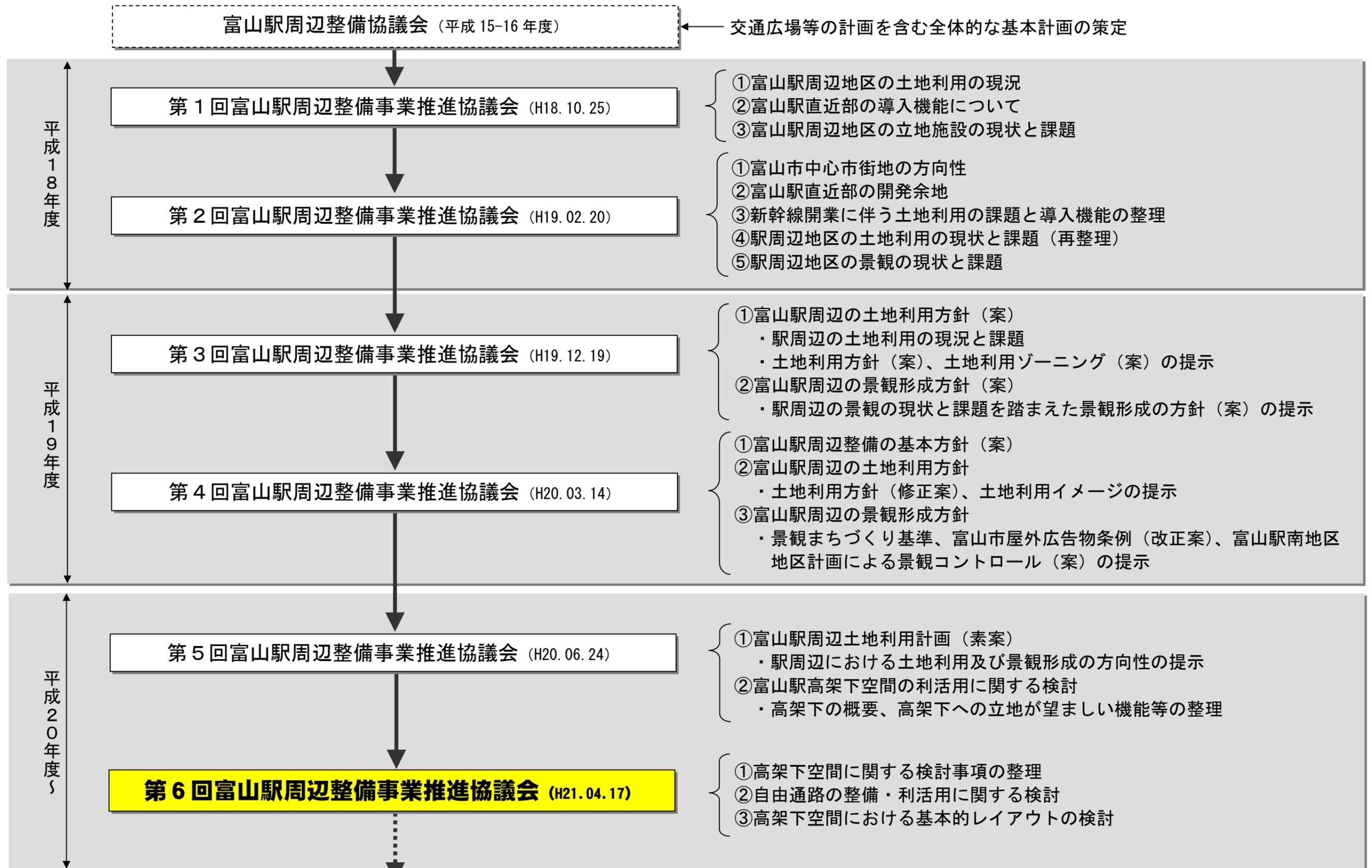
目 次

1. これまでの検討の流れ	1
2. 高架下空間に関する検討事項の整理	2
3. 自由通路の整備・利活用方針に関する検討	3
(1) 南北自由通路	3
(2) 東西自由通路	4
4. 高架下空間における基本的レイアウトの検討	5
(1) 高架下空間での立地が想定される施設	5
(2) 高架下空間における主な公共公益施設の考え方	6
(3) 高架下空間における施設配置の考え方	7
(4) 高架下空間における公共公益施設の基本的レイアウト(案)	8
5. まとめ・今後の検討課題	9

平成21年4月17日

富 山 市

1. これまでの検討の流れ



※以降の検討課題・・・南口の景観形成と地区計画の検討／駅隣接街区の利活用方針／駅周辺まちづくり／駅前広場の利活用など

2. 高架下空間に関する検討事項の整理

- ◆ 検討範囲：西口交通広場から富山駅横断東線にかけての高架下空間（駅務施設は除く）
- ◆ 検討事項：①自由通路の整備・利活用方針について
 - 南北自由通路及び東西自由通路の整備・利活用方針の立案
- ②高架下空間の基本的レイアウトについて
 - 高架下空間における公共公益施設とその配置の考え方について提案

※自由通路の検討に際しての前提条件

	概要	土地所有	管理主体	整備主体
南北自由通路 (軌道部を除く)	幅員：37.5m (12.5m×3スパン)	鉄道事業者	コンコース側の1スパン分は鉄道事業者、路面電車側の2スパン分は富山市(予定)	未定
東西自由通路	幅員：約6m (新幹線高架と在来線高架の間のスペース)	鉄道事業者	未定	未定

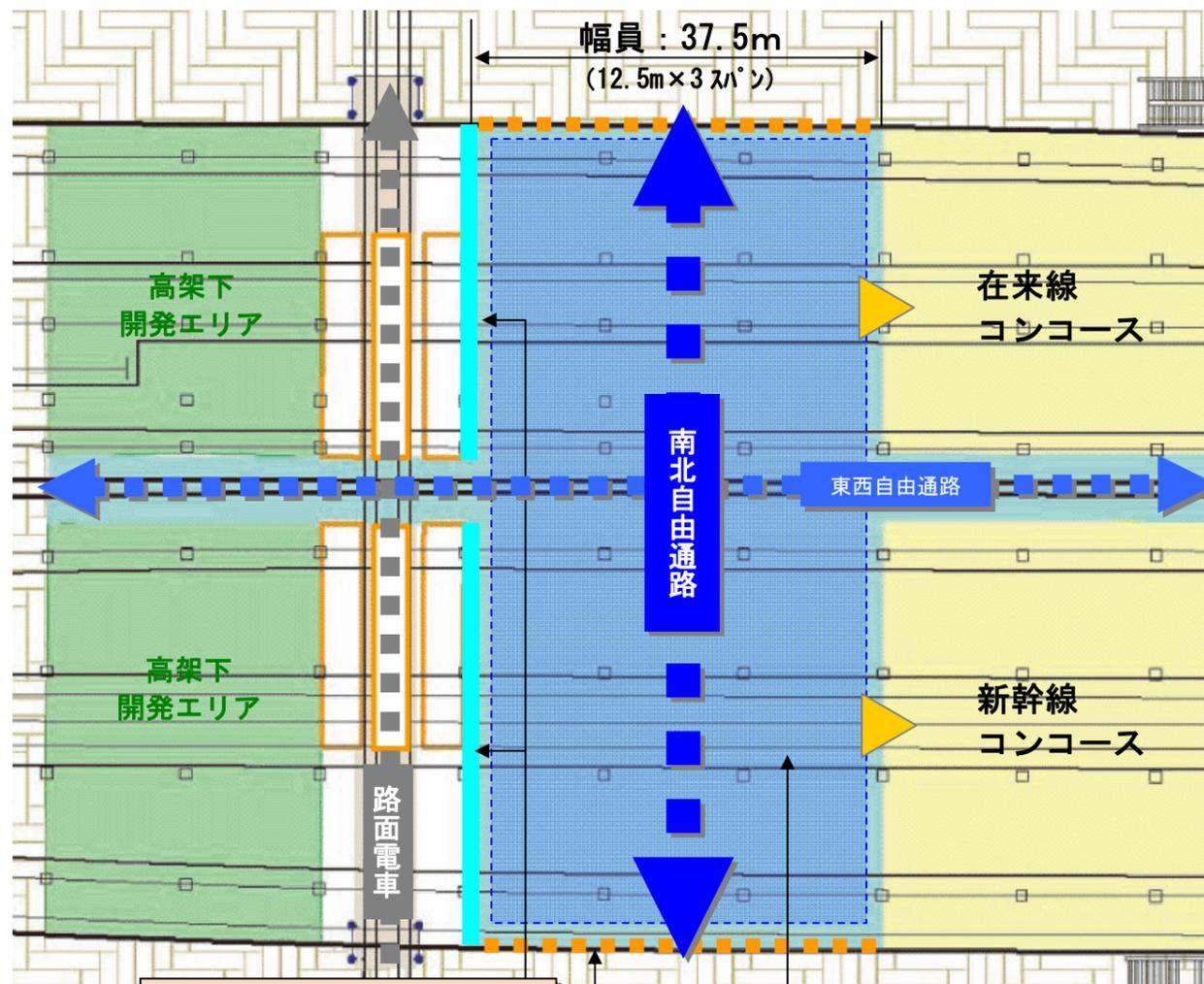


3. 自由通路の整備・利活用方針に関する検討

(1) 南北自由通路（軌道部を除く）

- ◆富山駅の南北をつなぐ広幅員の開放的な空間とする
⇒※すっきりとした空間を確保するため、できるだけモノ（施設等）を置かないよう配慮
※通路内に施設等を配置する場合は、人々の通行や路面電車電停への視界の妨げとならないよう配慮。柱回りの空間は、通行や視界の支障にならない範囲で活用を検討。
- ◆賑わいを創出するための空間として活用することを想定（イベント等）
- ◆通路内の維持管理面などに配慮し、南北出入口には扉を設置する方向で検討
- ◆夜間も通行できるようにすることが望ましい（駅周辺の利便性・一体性の確保）

【南北自由通路の平面イメージ】



●改札口や通路内からLRT車両や電停が見えるようガラス張りのしつらえとする

●駅舎内の空調効率や悪天候時の対応、維持管理面に配慮して出入口には扉を設ける

- すっきりとした空間とするため、できるだけモノを置かないよう配慮（柱回りの活用は要検討）
- 改札口から出てくる人が路面電車電停を認識しやすいよう配慮（視界を遮らない）
- 駅前広場と一体的に活用してイベントなどを開催できるよう広々とした空間を確保
- 団体利用者が滞留できるスペースを確保

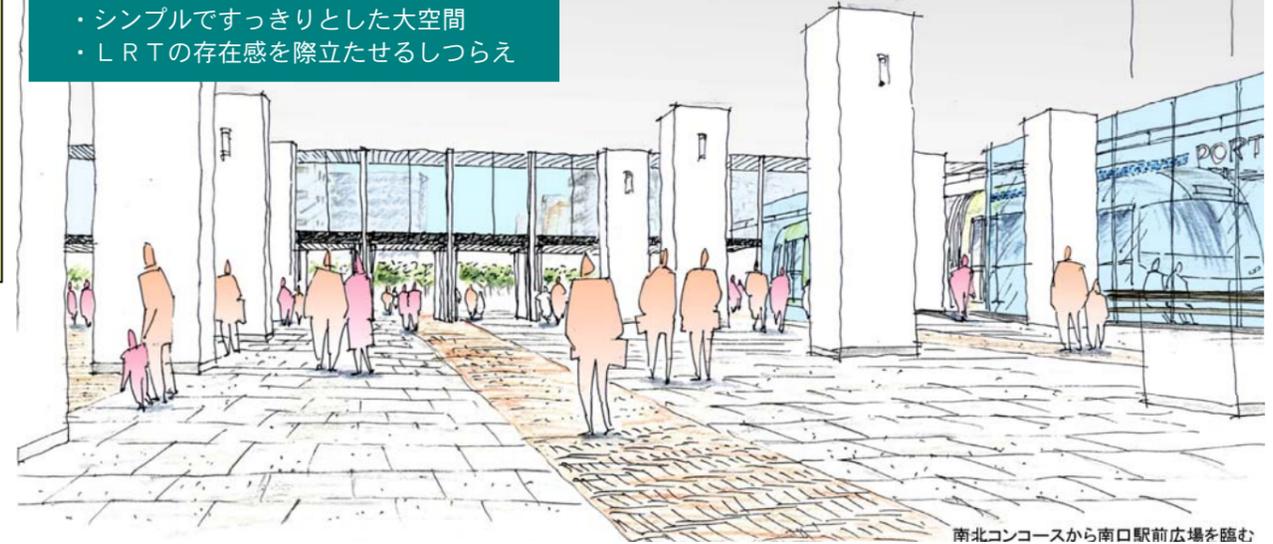
※南北自由通路の主な役割

富山駅南北市街地の一体性向上／賑わい創出空間としての活用（イベント等）

●南北自由通路イメージ

- ・シンプルですっきりとした大空間
- ・LRTの存在感を際立たせるしつらえ

H20.7.4 第6回富山駅周辺景観デザイン検討委員会資料より抜粋



南北コンコースから南口駅前広場を臨む

●南北自由通路の利活用イメージ

※広い通路空間を有効利用するため、柱回りの活用を検討（ベンチ等）

※天候に左右されることなく、イベント等のスペースとして活用できる空間を想定



【柱回りの活用】
柱回りにベンチを設置（短時間利用への対応）（広島駅地下通路の事例）



【柱回りの活用】
柱に電車の時刻表を設置（JR金沢駅の事例）



【イベント空間】
新作自動車の展示スペースとして活用（JR広島駅の事例）



【イベント空間】
懐かしの映画ポスター展の開催風景（JR札幌駅の事例）

●事例：他都市の通路空間

※他駅では、観光案内所やキヨスク、土産店、ワゴン販売店（露店）、鉄道関連のパフレット棚などが通路内に設置されている



※JR金沢駅東西通路
・通路中央にJRのパフレット等の棚が並ぶ
・時期によっては特産品などの露店が並ぶ



※JR札幌駅南北通路
・通路中央に待合があるほか、情報板、パフレット、ポスター、露店など様々なものが並ぶ



※JR博多駅東西通路
・通路中央に観光案内所があるほか、キヨスクや土産店が並ぶ（新駅ビルにあわせて工事中）

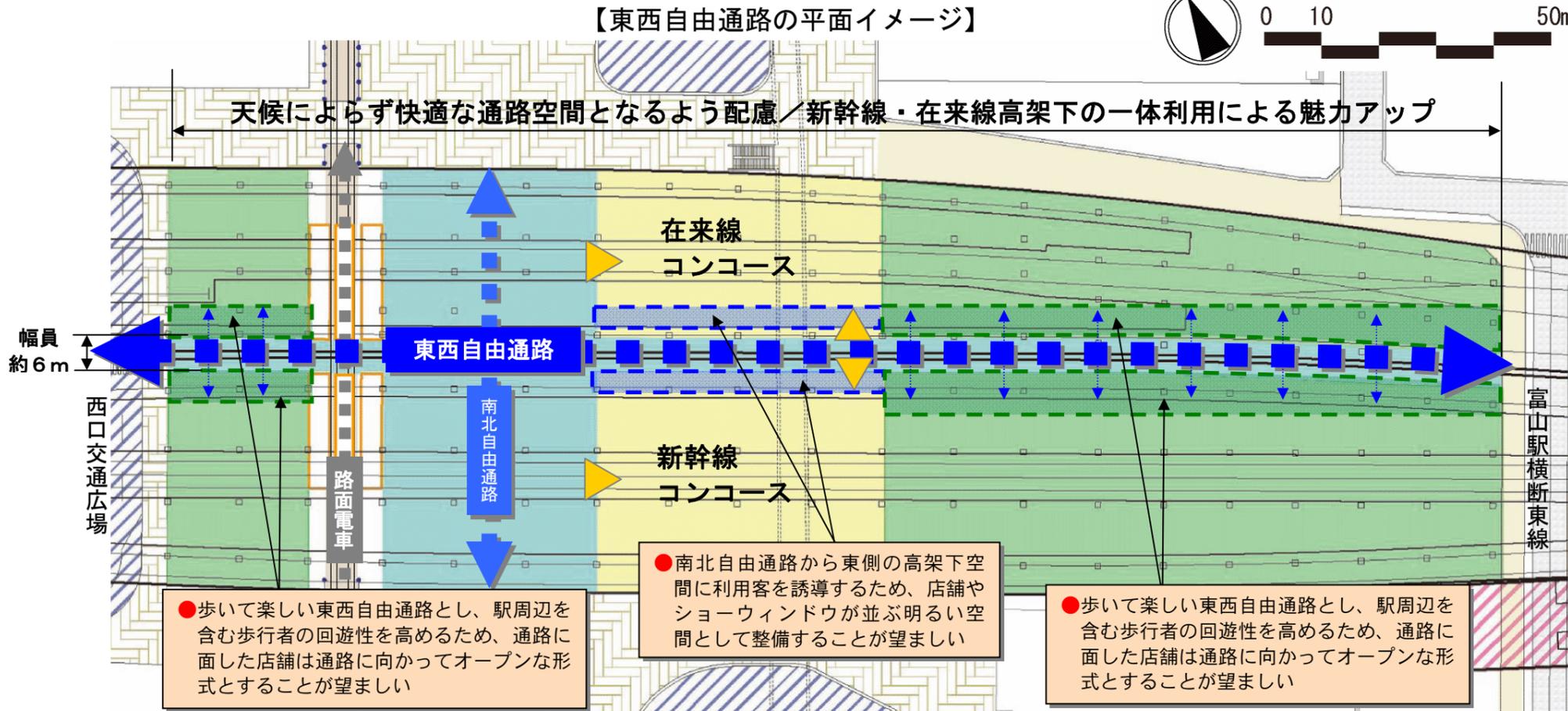
⇒富山駅ではすっきりとした空間を確保するため、できるだけモノを置かないよう配慮

(2) 東西自由通路

- ◆西口広場や富山駅横断東線～改札口の通路を確保し、歩行者動線の充実を図る
- ◆雨や雪によって通行の妨げにならないよう配慮する
- ◆新幹線・在来線高架下を一体的に利用することで魅力アップを図る
- ◆自然光が入るような工夫や、通路に面して店舗やショーウィンドウを配置するなど、明るい印象の通路空間とする
- ◆夜間も通行できるようにすることが望ましい（駅周辺の利便性・一体性の確保）

※東西自由通路の主な役割

新・在高架下の一体的な利活用促進（＝高架下空間の魅力アップ）／駅東西方向の歩行者動線の充実など



●東西自由通路イメージ
・両側に店舗やショーウィンドウが並ぶ明るく開放的な空間



H20. 7. 4 第 6 回富山駅周辺景観デザイン検討委員会資料より抜粋

●東西自由通路の整備イメージ



- ①両側に店舗・高架下出入口やショーウィンドウが並ぶパターン (写真：金沢・プレーゴ)
- ②両側に物販や飲食などの店舗が並ぶパターン (写真：盛岡駅)
- ③両側に奥行き狭い小さな店舗が並ぶパターン (写真：東京駅)

【事例】JR金沢駅の場合



- 新幹線・在来線の境界部 (自由通路・コンコース部分) ガラスで連結してトツライトになっている
- 新幹線・在来線の境界部 (コンコース以外の部分) 屋根はかかっておらず、搬入等の通路として使用
- 高架下間の連結部 新幹線・在来線の高架下間は一旦外に出ないと連絡できない

4. 高架下空間における基本的レイアウトの検討

(1) 高架下空間での立地が想定される施設

◆ 駅周辺での立地が想定される施設の中で、特に高架下での立地が望ましい公共公益施設について検討・整理

【高架下必要性 凡例】

◎：必要性が高いと思われる施設 ○：必要性があると思われる施設 △：周辺街区での立地が適当と思われる施設

【主なターゲット】

「旅行者」…他の都道府県から新幹線等に来て富山駅に降りる観光客・出張者。または市外・県外へ移動する旅行者。

「通勤・通学者」…通勤・通学のために日常的に駅を利用する人（鉄道など公共交通利用が目的）

「一般市民」…駅または駅周辺に目的があり、たまに駅を利用する人（公共交通利用が目的ではない）

	施設	現状有無 (駅舎内&直近)	高架下 必要性	主なターゲット			備考
				旅行者	通勤・ 通学者	一般 市民	
主な公共 公益施設	・観光案内（観光情報センター）	有り	◎	●			来街者に県全体及び富山市の魅力や情報を伝えるために必要（現在は駅南口広場にあり）。
	・観光物産（販売・展示等）	有り	◎	●			来街者に県全体及び富山市の魅力や情報を伝えるために必要（現在はCIC5階「いきいきKAN」にあり）。
	・公共交通関連施設（券売・案内等）	有り	◎	●	●	●	各種公共交通機関の利用円滑化を図るため必要（現在は駅北口構内やオーバードホール1階（インフォメーションセンター）にあり）。
	・待合室	有り	◎	●	●		新幹線などの各種公共交通の待ち時間を快適に過ごせる空間がラッチ外に必要（現在は南口駅舎・北口駅舎にあり）。
	・トイレ（身障者、乳幼児対応）	有り	◎	●	●	●	多目的トイレなど、誰でも利用できるトイレが必要（現在は南口駅舎・北口駅舎にあり）。
	・交番（警察）	有り	◎	●	●	●	駅周辺の治安維持（防犯対策）等のため必要（現在はJR駅～地鉄駅間にあり）。
	・コインロッカー	有り	◎	●			主に来街者の一時的な荷物保管場所として必要（現在は南口・北口の駅舎外側にあり）。
主な民間 施設 (既存施設 +他駅の 事例から ピックアップ)	・土産店	有り	◎	●			現在は駅構内「とやま駅特選館」1～2階にあり。銘菓、海産物、名産品、工芸品など。
	・飲食店、居酒屋	有り	◎	●	●	●	現在は駅構内「とやま駅特選館」1階・3階にあり。地鉄駅周辺にファーストフード店やカフェ等あり。
	・コンビニエンスストア	有り	◎	●	●	●	現在はJR駅～地鉄駅間に「ハートイン」があるほか、駅構内にキヨスクあり。
	・書店	有り	◎	●	●		現在は駅構内「とやま駅特選館」2階にあり。
	・各種ATM	有り	◎	●	●	●	現在は駅構内1階にあり。
	・ドラッグストア	有り	◎	●	●		現在は駅構内「とやま駅特選館」2階にあり。
	・旅行代理店	有り	◎	●			現在は駅構内「とやま駅特選館」1階にあり。
	・宅配窓口	有り	◎	●			現在は駅構内2階にあり。
	・クリーニング店	有り	◎		●	●	現在は駅構内「とやま駅特選館」2階にあり。
	・スーパー（食品、日用品）	無し	○		●	●	現在はエスタ地階にあり。
	・フード・テーマパーク	無し	○	●	●	●	「きととき」をキーワードに富山の新鮮な海の幸や富山ブランドの食を味わえる空間の創出。
	・情報発信（サテライトスタジオ等）	無し	○		●	●	賑わい拠点ゾーンとしての演出。札幌駅構内にあり。
	・エステ、リラクゼーション	無し	○	●	●		現在はマリエやエスタ内にあり。電車の待ち時間に利用できるクイックサービス（マッサージ等）を想定。
	・レンタカー窓口	無し	○	●			サービスカウンターの設置を想定（モータープールは駅周辺等での配置を想定）。
	・美容店、理容店	無し	△		●	●	マリエなど既存周辺施設あり。
	・ファッション、雑貨	無し	△		●	●	マリエなど既存周辺施設あり。
	・医療（各種診療所）	無し	△		●	●	現在はマリエやCIC内に歯科・眼科・美容整形等あり。
・学習（学習塾、英会話教室、料理教室等）	無し	△		●	●	既存施設なし。駅周辺街区での対応が望ましい。	
・娯楽（ゲームセンター等）	無し	△		●	●	既存施設なし。駅周辺街区での対応が望ましい。	
・文化（ホール、美術館、博物館等）	無し	△			●	駅北にオーバードホールあり。	
・映画館	無し	△			●	周辺街区（南西街区）での立地を想定（土地利用イメージ）	
・スポーツ（フィットネスクラブ等）	無し	△		●	●	既存施設なし。駅周辺街区での対応が望ましい。	

(2) 高架下空間における主な公共公益施設の考え方

観光案内・観光物産施設

- ◎富山駅を訪れた人に、必要な情報を的確に伝えることが必要
- ◎新幹線で訪れた観光客に、富山の魅力を伝えることのできる施設が必要
- ◎富山をもう一度訪れたいと印象付けることのできる施設が必要
- ◎来街者に対して、富山の「やさしさ」が伝わるような工夫が必要
⇒Ex. コンシェルジュが新幹線ラッチ正面で出迎えるサービスの提供・・・など

★新幹線で初めて富山駅を訪れる来街者が気軽に情報入手できるように、観光案内・観光物産施設の位置は、鉄道のラッチ（改札）に近い場所に配置することが望ましい。→さらに、観光案内施設と観光物産施設は互いに近いほうが望ましい。



※JR鹿島中央駅観光案内所
・改札口直近にあり、交通、宿泊、レンタカー、レンタサイクル等の総合案内に対応。



※JR長崎駅観光案内所
・他駅の施設と同様、改札口直近にあり、交通や宿泊等の総合案内に対応。カフェや待合室と併設。

★観光案内施設は、来街者が利用しやすいようにオープンカウンター型のものですることが望ましい。



※JR博多駅観光案内所
・福岡市とJRが共同で設置しており、女性による対応と機器対応の両機能をもつ（自由通路（ラッチ外コンコース）内にあり）



※JR札幌駅観光案内所
・『北海道さっぽろ「食と観光」情報館』として、市内・県内の総合的な観光案内施設と観光物産施設が一体化。ワンストップで各情報が得られる。

★観光案内・観光物産施設における情報提供の内容や管理運営方法等については、民間の視点を導入する仕組みを今後検討していく。



※観光物産（販売・展示）
・いきいきKAN内にある物産センター。銘菓や海産物など富山の地場産品を購入できる。



※観光物産（体験）
・いきいきKAN内のます寿し作り等の体験コーナー。高架下に導入すれば、電車を待つ間にも利用可能。

待合スペース

- ◎ラッチ（改札）外において、新幹線をはじめとする公共交通の待ち時間を快適に過ごせる空間が必要

★短～長時間対応の待合スペースについては、鉄道をはじめとする各種公共交通へのアクセシビリティに配慮し、鉄道のラッチ（改札）に近い高架下空間に設けることが望ましい。



※JR長崎駅待合室
・カフェや観光案内所が併設されているほか、大型ビジョンを設置。室内からホームの列車を眺めながら待ち時間を過ごせる。



※JR岡山駅待合室
・カフェが併設されているほか、無線LANコーナーや大型ビジョン、雑誌等を設置。

公共交通関連施設

- ◎多彩な公共交通が集まる結節点として、各種公共交通の案内や券売等を行う施設が必要

★路面電車の電停や観光案内施設に近い場所での設置が望ましい



※ライトレール案内所（現況）
・駅北口に立地する案内所。券売機が併設されているほか、ライトレール関連グッズを購入できる。



※富山地铁総合案内所（現況）
・電鉄富山駅の改札前に立地。定期券、回数券、各種フリーパスのほか、アルペンルートの切符も販売。

交 番

- ◎駅及び駅周辺の治安維持を図るため、交番が必要（現在も駅直近にあり）

★高架下の人通りの多い場所での立地が望ましい

ト イ レ

- ◎ラッチ外で、高架下の各エリアにトイレが必要（多目的トイレなど）

★通路沿いなどの目に付きやすい（わかりやすい）場所での設置が望ましい
★夜間も利用できるトイレとすることが望ましい

(3) 高架下空間における施設配置の考え方

◆新幹線で訪れる旅行者（観光客）や、駅を日常的に利用する通勤・通学者の利便性を考慮し、改札口に近い部分から、旅行者＞通勤・通学者＞一般市民の優先順位に配慮した施設配置を想定

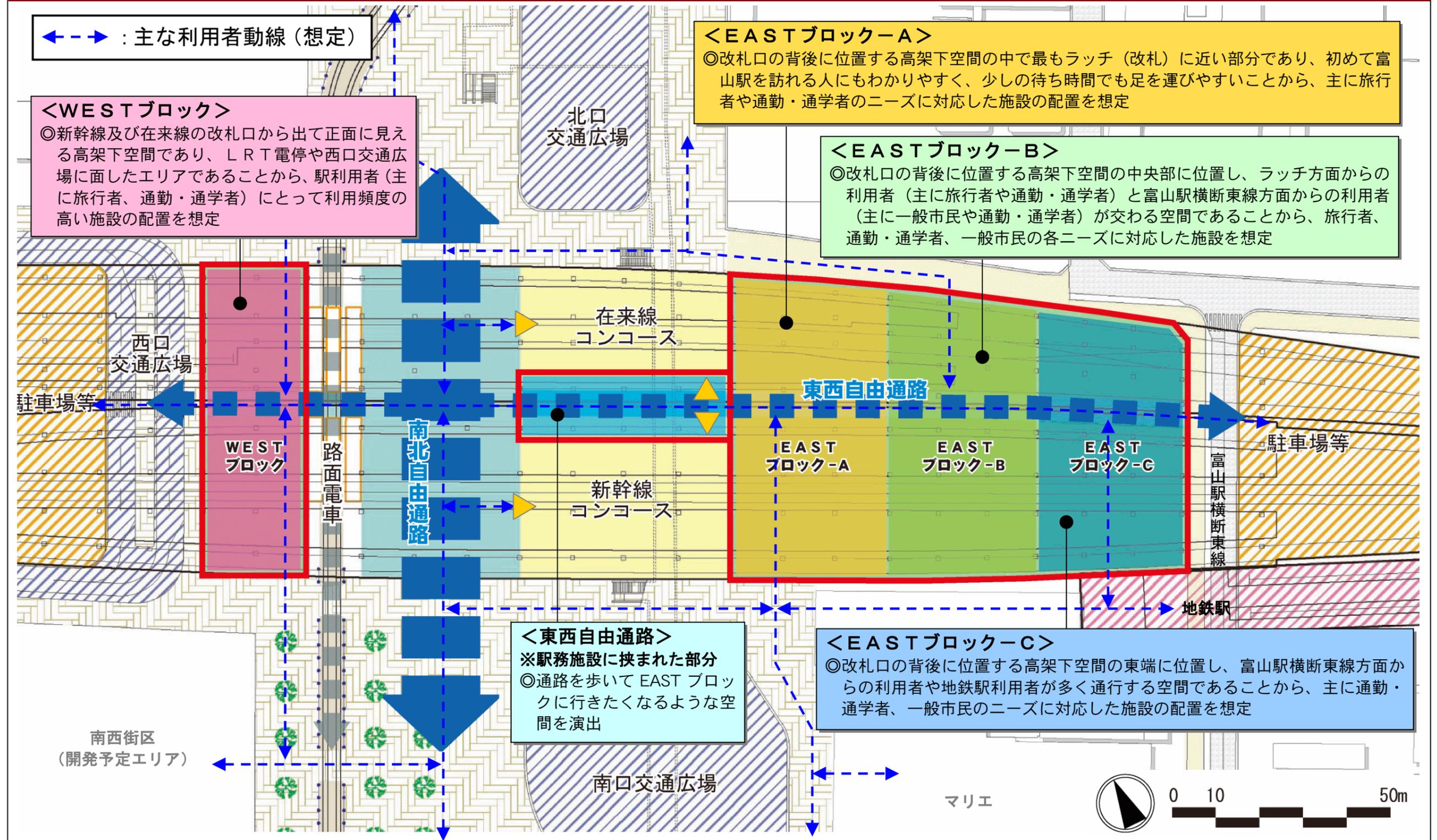
【改札口からの距離と主なターゲット】



【駅利用頻度】

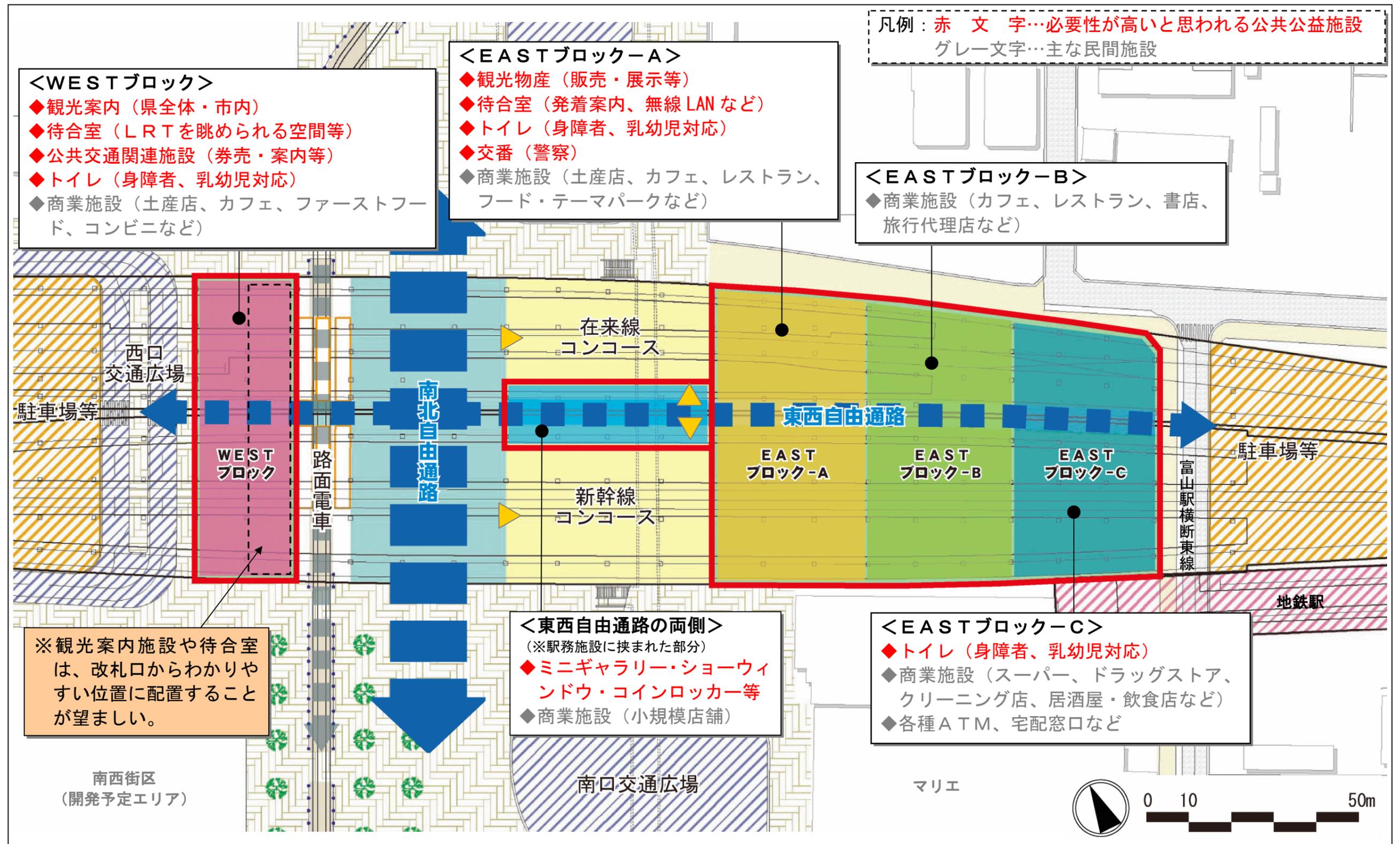
- ・旅行者（高）
→観光拠点として利用
- ・通勤・通学者（高）
→ほぼ毎日利用
- ・一般市民（低）
→目的地として利用

ゾーニングの基本的な考え方（共通事項）



(4) 高架下空間における公共公益施設の基本的レイアウト (案)

- ◆ブロック別に必要と思われる公共公益施設を中心に検討。
- ◆公共公益施設設置の可否、設置者、管理者など具体的な事項については、今後、関係者間で協議する。



5. まとめ・今後の検討課題

【1】自由通路の整備・利活用について

南北自由通路

- ◆富山駅の南北をつなぐ広幅員の開放的な空間とする
- ◆賑わいを創出するための空間として活用（イベント等）
- ◆夜間も通行できるようにすることが望ましい（駅周辺の利便性・一体性確保）
 - ⇒広幅員の通路空間をイベント等のスペースとして有効活用するため、できるだけモノ（施設等）を置かないよう配慮（柱回りの活用は要検討）
 - ⇒モノや施設を設置する場合は、設置可能な大きさや用途、デザイン、位置など、関係者間で一定のルールや維持管理の方法等を検討する必要あり

東西自由通路

- ◆西口交通広場～改札口～富山駅横断東線・地鉄駅間の通路を確保
- ◆雨や雪によって通行の妨げにならないよう配慮する
- ◆夜間も通行できるようにすることが望ましい（駅周辺の利便性・一体性確保）
 - ⇒歩行者動線の充実や新・在高架下の一体利用による魅力アップを図るため、天候に影響を受けず、快適で明るい通路空間とするよう配慮
 - ⇒整備イメージの具体化について協議・検討が必要（誰がどのように整備するか（駅舎デザインにも関連））

【2】高架下空間の基本的レイアウトについて

観光案内・観光物産施設

- ◆新幹線で富山駅を訪れる旅行者（観光客）に対して、富山市あるいは県全体の情報を提供するため、観光案内・観光物産施設が高架下に必要
- ◆旅行者（観光客）が改札口を出てすぐに情報を入手できるように、改札口にできるだけ近く、わかりやすい場所に配置することが望ましい
 - ⇒改札口に近いWESTブロックやEASTブロック-Aへの配置が望ましい
 - ⇒観光案内施設は、利用者が気軽に立ち寄れるようオープンカウンター型とすることが望ましい
 - ⇒民間の視点を入れる仕組みについて要検討

待合スペース

- ◆新幹線や在来線だけではなく、LRT、地鉄、路線バスなどの各種公共交通の待ち時間を快適に過ごせるよう、ラッチ外に待合スペースが必要
- ◆短時間利用に対応する南北自由通路内の柱回りのベンチ等に加え、短～長時間の待合に対応できるスペースを設置することが望ましい
 - ⇒駅前広場や自由通路に近いWESTブロックやEASTブロック-Aへの配置が望ましい
 - ⇒長崎駅等のように、観光案内・観光物産施設やカフェとの併設も視野に入れ、今後詳細に検討する必要あり

公共交通関連施設

- ◆多彩な公共交通が集まる結節点として、各種公共交通の案内や券売等を行う施設が必要
 - ⇒改札口や路面電車の電停に近いWESTブロックへの配置が望ましい
 - ⇒観光案内施設との併設等を視野に入れ、今後詳細に検討する必要あり

交番

- ◆駅及び駅周辺の治安維持を図るため、交番が必要（現在も駅直近にあり）
 - ⇒高架下の人通りが多く、駅前広場（特にメインとなる南口）をみわたせる場所が望ましい（EASTブロック-Aなど）
 - ⇒今後、関係者間での協議・調整が必要

トイレ

- ◆高架下の複数個所に、誰もが気軽に利用できるトイレが必要（多目的トイレなど）
 - ⇒自由通路から分かりやすい場所に設置することが望ましい
 - ⇒高架下店舗の開発や自由通路の開閉時間等と一体的に検討していく必要あり

